

私は8月30日から10月1日までの約1カ月間、三沢市立三沢病院外科で臨床実習を受けさせていただきました。三沢病院の外科を希望したのは、私自身消化器に関心があり、こちらの外科が消化器疾患を中心に多くの手術を手がけていると聞いたためです。また実習生にも多くの手技を経験させていただけるとも伝え聞いていたことも魅力に感じた理由でした。

実際に実習が始まると、事前に聞いていた以上に積極的に多くの手技を実践する機会を提供してくださいました。具体的には、手術中の腹腔鏡のカメラ持ち、鉤引き（開腹手術において筋鉤という器具を使って術野を広げる操作）、糸結び（縫合糸で手術創などの組織を引き寄せて固定する処置）、埋没縫合（皮下組織から真皮方向に糸をかける、糸が体表に出ない縫合手法）、スキンステープル処置（外科手術後に医療用ホッチキスを用いて皮膚組織を縫合する処置）、回診中の抜鉤（縫合に使用したホッチキスの針を抜き去る処置）、ドレーン管抜去などで、中には大病院ではさせてもらわなかったものもありました。私がうまくできなかったときでも、「下手だからもうやっちゃダメ」ということはなく、後日繰り返しましたチャレンジさせていただけたことにとっても感謝しています。うまくいかないときも、なぜうまくいかなかったのか指導医の先生からアドバイスを頂きました。



外科の先生方が気さくに接してくださったのもとても嬉しかったです。初日から私のプライベートな部分にガンガン切り込むように質問が飛んできたのも良い思い出です。そんなフランクな先生方であるためか、いつも病棟や手術室の看護師さんと和気あいあいとお話しされていたのが印象的でした。将来自分が医師として病院勤務するときにも、このような雰囲気の職場で働くことができたらな、と思いました。

今回の実習を通じて外科的な知識や手技だけでなく、患者さんに相対する姿勢についても学ぶことができたと思います。回診中、患者さんの中には治療方針に沿わないことを主張してくる人もいますが、そのようなときに先生方は毅然とした態度で患者さんを諭しておられる場面がありました。患者さんと接するとき大切なものとして傾聴、共感といったキーワードをこれまで幾度となく聞いてきましたが、それは患者さんの求めを何でも受け入れるということではないということを確認しました。病気を治したり予防するには医学的治療だけでなく患者さん自身の我慢や努力も必要であり、そのことをきちんとはっきり伝えることも時として必要なのだと思いました。

今回の実習で実に多くの経験を積ませていただく中で、自身の適性や興味、今後の課題をおぼろげながら把握することができたように思います。今回得られた知識や経験を残りの臨床実習と卒後臨床研修で活かしていきたいです。

末筆ながら外科の松本先生、池永先生、久保先生、板矢先生、内科の鈴木先生、研修医の長岡先生、管理課の工藤さんはじめ病院スタッフの皆様には約1カ月間大変お世話になり、誠にありがとうございました。皆様の今後益々の御活躍と御多幸をお祈り申し上げます。